

ひまわり からの メッセージ

91号

2019.1.20

NPO ひまわりの花園
内域支援センター
西濃発達障がい
発行人：中野たみ子

へへへーろの中に



今年は平成最後の年となつて、様々な所で“区切り”が叫ばれて
います。元号というものを改めて考えさせられる昨今です。

昭和天皇が崩御された朝、私は京都駅のプラットホームに立
つて構内放送を聞きました。その日は、奈良へ日帰りの一人旅に
出た日でした。奈良に着くと訪れる仏閣では反旗が掲げら
れ、僧侶の方達があわただしく祭壇の準備に追われていました。
あれから三十年。あつと言つ間に過ぎ去つてしまつた様に思ひ
ます。二三十年間に私は何を為し得たのかと思ひ返しても、
ただ、あわただしく日を送つてしまつたという思いしかありません。
多くの子どもたちや親しい人々との別れを経験したにも
かかわらず、自分には明日という日が必ず来ることを疑ひもせず
生きてきた歳月でもありました。

しかし、この年末年始にかけて命といふものを考えさせられる

出来事がいくつもあり、つい一週間前には心の友ともいふ、ベ
キ人を失い、喪失感や虚しさが心を占めています。この心の
有りようは、両親の時よりも深いものがあります。

友は、身の回りの整理をし、後のことをでも全て手配して
逝きましたが、私とさう、やりだすこと、やうなければならな
いことを次々と呼び込んで終活には手をつけることができそ
うにありません。友の覚悟には程遠いです。しかし、人

は誰もが心の中に様々な思いを抱き、それに耐えて生きてい
くことを思えば、私には私なりの生き方を貫くしかありません。
「ずっとずっと見守つておるからね」というのが友の最後
のことばでしたが、きっと私のいろいろの中にずっと生き続けて
くれるに違ひありません。

今日、庭の垣根の根元に濃紺の小さな董が咲いていました
を見つけました。その花はとても香りが良く、いつもは摘み採
つて楽しむのですが、さうと庭に置いておくことにしてました。遠い
昔、京都の寺で見つけたことばが思い出されました。

花は黙って咲き 黙って散つてゆく
そうして再び枝に見えられない。

けれどもその一時一處にこの世の全てを托している
一輪の花の聲であり 一枝の花の眞である
永遠に滅びぬ生命の喜びが

悔もなくそこに輝いてる

母と子の関係

年令と共に変化するもの



私は、よく人前で子どもの発達や母子関係について話すことが多いのですが、母と子の関係は、子どもの年令と共に変化していくものだと思ひます。

最初の子ども（長子）の年令が親としての年令であるということも聞かれたことが多いと思ひます。子どもが三歳であれば、親の方は三歳の親、子どもが十歳であれば親として十歳というように、親としての年令を重ねていくのだと考えていいわけです。子育ては親育ちでもあるといつことです。世の中は、今までにないスピードで変化しています。母子関係も変化が見られてきていますが、子どもたちが「自身共に育つ」環境を考える上で母と子との関係は、とても重要であることに変わりはないでしょう。

母子一体の二の時期から、子どもは少しずつ成長、発達し、二歳位になると、「つむり行動」が現れています。若いママたちの中には、何でも子どもの要求のまま行動する方がおられます。実は、「自分はくのつもりだったけどママはちがつていた」という経験は、とても大切なことがあります。

人間の赤ちゃんは未熟な状態で生まれ、手をかけて育てなければならぬようになります。お母さんに抱かれる快い触感覚と授乳、そして人のことは赤ちゃんに安定をもたらします

す。アタッチメントと呼ばれる母と子の愛着関係は、その後の人格形成にも影響を与えていくとも考えられます。赤ちゃんは何もできないように見えて、実は音と人の声とは別の反応を示し、新生児期にコ・アクションといって母の口型をまねるかのように口を開くような様子も見られたりするそうです。赤ちゃんはすでに「へ」としての力を外界に向けて発しているともいえます。

お母さんのことばかりを聞き、ほほえみ返しかしたり、お母さん不了解を求めるように振り返ってみたり、手さしや指さしで、見つけた物を教えて、要求を出したりします。赤ちゃんは、ことばを話す以前から、人として共感しようとしているわけです。つまり、この時期の母と子の関係は、とても大切だと言えるでしょう。

母子一体の二の時期から、子どもは少しずつ成長、発達し、二歳位になると、「つむり行動」が現れます。若いママたちの中には、何でも子どもの要求のまま行動する方がおられます。実は、「自分はくのつもりだったけどママはちがつていた」という経験は、とても大切なことです。

幼児期は、母が百パーセントキミを貸していた時期から、少しずつ自分でござることをふやしていきます。まだまだ子どもたちは、自分の不足をどのように動かしたらいの

かわからていません。つまりボディイメージができないのです。

子どもが食べこぼすのが嫌だからとか、早くやつとて済ませたいからと、母が全部やつてしまつては、この時期にボディイメージが育つません。手足の動きを一緒にやってあげないと覚えられない子もいますから、その点は要注意でしょう。こばの指示だけでは、理解できない子もありますから、自分のお子さんのことをよく知っておくことです。

保育園でやってもうがつ等々と子育ても怠けると、後でツケが回ってくるかもしれません。お仕事も大変ですが、児童期の子育てこそ、ついねいにやりたいものです。

ただ、発達上特性がある子どもたちはお母さんを悩ませるに違いありません。育て難いがあるからです。こだわりの強さもあるでしょうし、母と子の関係も微妙です。自分の都合の良い時だけ召使いのように関わる子や興味のあることだけ参加する子、動き回る子など様々です。しかし、子育てという点では、待つことや我慢することも身につけていい、こましいですね。せめて食事の時は座って待つ、座って食べるといったところは、幼児期に身につけておきたいと思います。

少しづつ手を放していくことも必要です。「うしなない」、「うは、したの?」と語彙よりも「何が忘れていいない?」とか、「自分でわかつていると思うけど……」と、本人に気がつかせることがかけが必要になってしまいます。

学校でも同じです。特に片づけや忘れものなどは、将来の困りにつながることですから、慎重にかわってほしいと思います。「隣の席の子に注意させてします」とおしゃる先生もいらっしゃいますが、それは職務怠慢でしょう。その子の特性を知り育てていくことは、大人に課せられることです、から……。

さて、子どもの行動について、一つ一つ指示を出してみると指示がないと動けない子になつてしまします。いちいち大人の顔色をうがうがつ子、「いい?」と大人の了解を常に求める子など、思ひ当たるお子さんが多いのではないか。特に受動的なタイプの子には多いように思いました。お母さんの方も「私がいてやらないと、この子はダメなんですよ」と、自分の存在価値を見い出して満足感をおぼえる方も少なくないはずです。でも、考えてみて下さい。親は年令から考えると子どもよりも先にいなくなつてしまします。その時に、なつてあわててみてもどうもなりません。幼児期や小学校の低学年では、親が決め

ることが多かったでしょが、少しうつ、子どもに選択させる一とを取り入れていきましょう。はじめは二者選択から始めてみて下さい。

中学生になると、母子関係はどうなっていくでしょうか。「「ロ研究」によると、中学生の子をもつ母親の訴えが多いのは、次のような項目だそうです。

- ・学校に相談しても、わが子の特性を理解してもらえない。
- ・この子を理解できるのは、自分だけだ。
- ・甘えと反抗が交互に入るのに困惑する。
- ・年令相応のことが分かっていないのが自然とする。
- ・卒業後の進路が心配です。

こうした悩みを相談できず、母親自身が周囲から孤立化していく可能性を示唆しています。そして、それが母子の更なる密着化につながり、子どもの自立を妨げる事になるのだと危ぶんでいます。

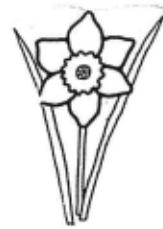
母子の密着化によって、母は子どもの表情やしぐさから、子どもの欲求を察知し、先走ってやってしまうことになるわけです。その結果、子離れ、親離れができないなくなってしまいます。自己選択から自己決定へと進めていけるように、お母さん達を支えていく場がどうしても必要なのです。

高校生のケースでは、子どもは親離れしようとしているのに

母の方が子離れできず、子どもも親も常にイラライラしているという場合もあります。親といふものは、子どもがいくつになても心配なものです。まして特性をもつ子であればなおさらです。しかし、「見守る」という選択肢も必要です。「失敗したうどくしよう……」と思ふのも親心でしょうが、失敗することもあるのだといふことも大事な学習です。もともと高校生になるまで、常に安全コースを歩ませてきただとすれば、それは問題です。小さい時から「こういうこともありうるのだ」、「それも想定内のこと」というふうに親も子も必要でしょうから……。

そして、就労に向けて必要なことは、もちろん、「自己理解」「自己認知」です。スマイルブックやサポートブックも子どもたちがニーズへ行きつくためのツールであるとも言えます。多くの人々の支援を受けつつ育つべきだ、このが今の自分につながっていること。困った時にどの様な助けが必要のかを自分の口で言えるようになると、もうスマイルブックは不要となるのではなじょうか。

お
知
ら
せ



三月例会は、川上ちひろ先生の講演会になります。性に関するお話を。(ソフトピアジャパンセンター)
四月十五日は奥の細道記念館です。